NIE実践報告

1．タイトル：新聞を使って言葉の概念をつかむ

2．学校名

東京福祉大学　通信教育部　札幌学習センター　こども學舎

3．実践者名（代表者名）

清藤　眞智子

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

文章表現　82名

6．単元（本時の学習課題）名

通信教育で要求されること、レポートを書くための表現力

7．目標(狙い)

新聞から時代の流れや動きをつかむ。読み比べて、いろいろな考えや見方があることを知る。視野を広げる。視点を多く持つ。

8．評価の視点

新聞記事の中から「要点」「要約」「論点」の意味を理解することが出来たか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

文章表現　30時間（内　新聞記事を使った授業10時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①オリエンテーション　新聞記事を使って「要点」をつかむ　（2時間）
②新聞「読者の声」を使って、意見文の書き方を学ぶ　（2時間）
③社説を学ぶ、事実か意見かを判別、自分の言葉で要約する　（2時間）
④実際のレポートから学ぶ　段落ごとに要点をまとめる　（2時間）
⑤良いレポートとはどんなレポートか、レポートの書き方を理解する、文、段落を各技術（2時間）
レポート設題：「保育者に求められる資質について述べよ」

（留意点）
・日本語検定4級問題用紙を活用した。
・北海道新聞「読者の声」抜粋プリントを活用した。
・各新聞社の社説の内容を比較検討を行った。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

（一部）新聞はオジサンが読む物だと幼少の頃から思い込んでいたが、子どもから社会情勢を聞かれて答えられない自分が恥ずかしい想いをしたことがある、授業で新聞を読むきっかけを頂いたので、今後は継続をして新聞を読みたい。新聞は義務教育を終えた者に理解できるように社会の事を伝えてくれていることを感じた。

12．成果と課題

当学校の学生は働きながら、子育てをしながら、保育士・幼稚園教諭の資格取得を目指して通って来ている、また、中には高校卒業資格を持たない、中卒者も同じ教室で学んでいる。年齢は18歳から50代と幅が広い。学生の社会経験をレポートへ活かす意味でも講師からの一方的な講義形式の授業では無く、新聞記事を題材として学生へ問題提起をすることで学生同士でディスカッションを活発化、促すことが出来る、様々な社会経験をした者同士が自分の意見を発表し他者の意見を聞き入れることで、１つのレポート設題に対して様々な気付きを文章化しレポートへ書き込むことが可能となる。